

功 績 概 要

【芸術文化分野】 稲垣克次 77歳 彫刻家

同氏は、芸術の専門家として常に旺盛な創作意欲をもち、次々と県内外に大作を発表し、その作品は高く評価されている。平成5年には日展会員となるなど、芸術水準は全国レベルの非常に高いものである。

昭和57年に三重県文化奨励賞、平成3年に三銀ふるさと三重文化賞、平成16年には三重県文化賞文化大賞を受賞するなど数多くの受賞歴を有する。

また、日展評議員や日彫会運営委員の要職や三重県彫刻会会長を歴任され、さらには、第9回国民文化祭やみえ県展等の審査員を務めるなど、本県の芸術文化の振興発展に尽力された。氏を仰ぐ彫刻作家も多く、県内彫刻界の指導的役割を果たしているといえる。

また、自らの創作意欲を絶やすことなく、近年も日展への出品や、出身中学校新築移転を記念したモニュメントや忠犬八公と飼い主の上野英三郎博士との銅像などの制作を手掛けている。

このように、氏の60年を超える永きにわたる本県文化に対する貢献は多大であり、また本県の文化水準を全国レベルにまで高めるとともに、多くの作家の輩出と活躍を生じせしめた功績は顕著である。

【文化財保護分野】 菅原洋一 65歳 元三重県文化財保護審議会会長

同氏は建造物の専門家として、県内に所在する多くの歴史的建造物を調査し、その保存・活用について指導をしてきた。

専修寺唐門・太鼓門・山門など（津市）や旧長谷川家住宅（松阪市）の調査を行い、歴史的建造物の的確な評価を行った。同氏が委員の一人として作成した調査報告は、これらの文化財が後に国重要文化財へと指定される基礎となった。

平成27～29年度には、重要文化財の専修寺御影堂・如来堂調査委員会の委員長として、同建造物の評価を総括し、国宝指定へと導いた。

平成10年9月から同28年9月までの長きにわたり、三重県文化財保護審議会委員に任命された。その間、高度な専門知識と豊富な経験により、県内文化財の適切な保護に努めた。県指定文化財の審議にあたっては、指定候補文化財の価値を的確に判断し、県教育委員会の諮問に応じた。平成22年9月から同28年9月の6年間は三重県文化財保護審議会会長を務め、会の総括という重責を担った。

さらに、関宿（亀山市）のほか、平成4年10月～平成30年3月までの間、奈良井宿・木曾平沢（以上、長野県塩尻市）の伝統的建造物群保存地区保存審議会員を努め、調査・指導にあたった。一般社団法人日本建築学会東海支部においては建築歴史意匠委員会委員を務め研究を推進している。このように、広く東海地域の歴史的建造物について調査研究をし、その成果を文化財保護へと還元している。

以上のように、同氏は三重県及び東海地域の文化財保護行政に多大な貢献をしている。